

地域フォーミュラリの実施に向けた 地域関係者への周知活動

○ 木下雅文¹、尾関正明¹、川上善久¹、熊崎進²、長友絵梨佳³ 1. 一般社団法人 飯田下伊那薬剤師会 2. 同 会営薬局 3. 同 会営やまなみ薬局

■ 背景

飯田下伊那地区（飯田市と下伊那郡の計1市3町10村：以下、当地区）では高齢化が顕著であることから、地域医療連携の一環として、飯田市長から飯田医師会に地域フォーミュラの検討依頼があり、飯田医師会から飯田下伊那薬剤師会（以下、当会）に地域フォーミュラ導入の可能性について検討依頼があった。
当地区では以前から地域医療連携の一環で飯田市、南信州広域連合（当地区の広域連合）を主体としたism-Link/ID-Link連携を実施しており、既に連携を図っていた調剤情報を活用した地域フォーミュラに関する検討を実施した。

■ 目的

当会では、当地区における地域フォーミュラを実施するために、飯田医師会、飯田下伊那歯科医師会、飯田市役所、当会会員薬局など（以下、地域関係者）に当地区の現状を把握し、当地区に最適な地域フォーミュラの検討と地域フォーミュラへの理解を深めるための周知活動を行った。

■ 結果

① 地域関係者への情報提供

※青文字：当会内の取り組み 黒文字：当会外への取り組み

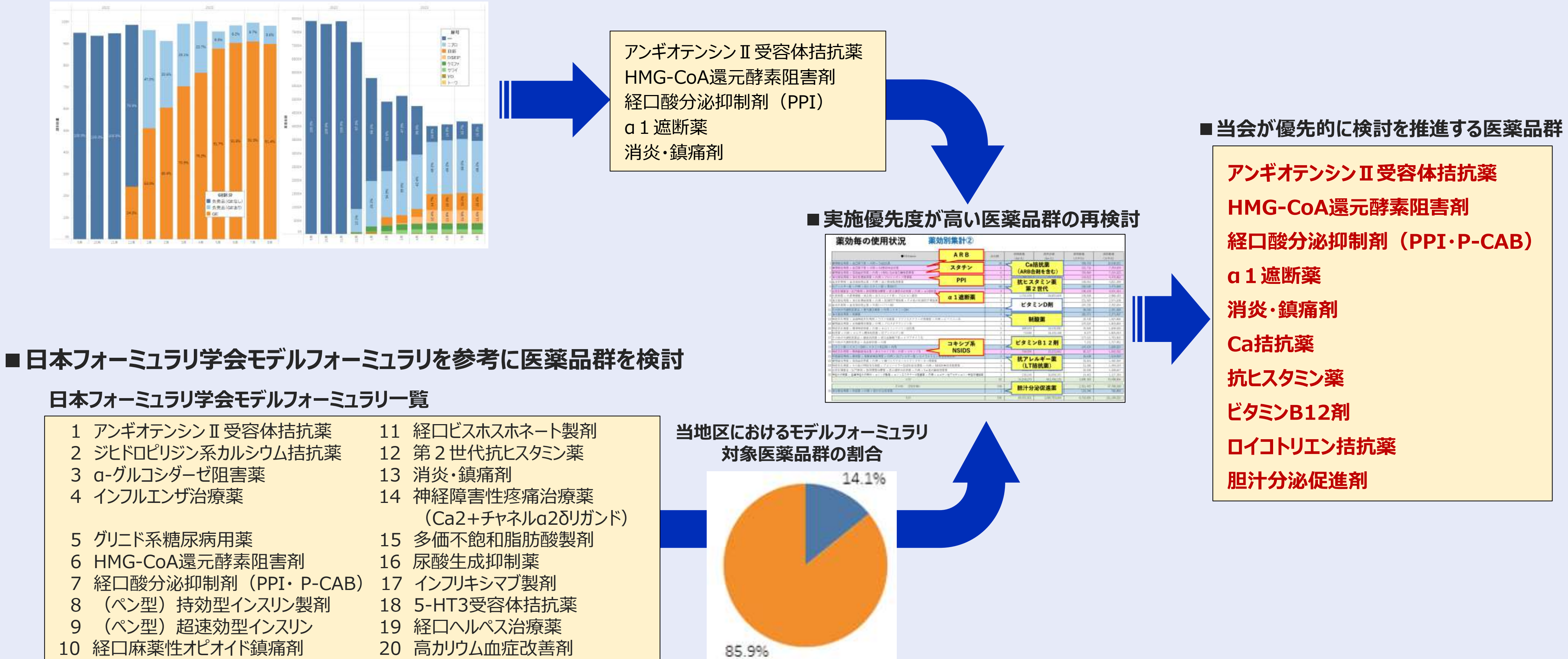
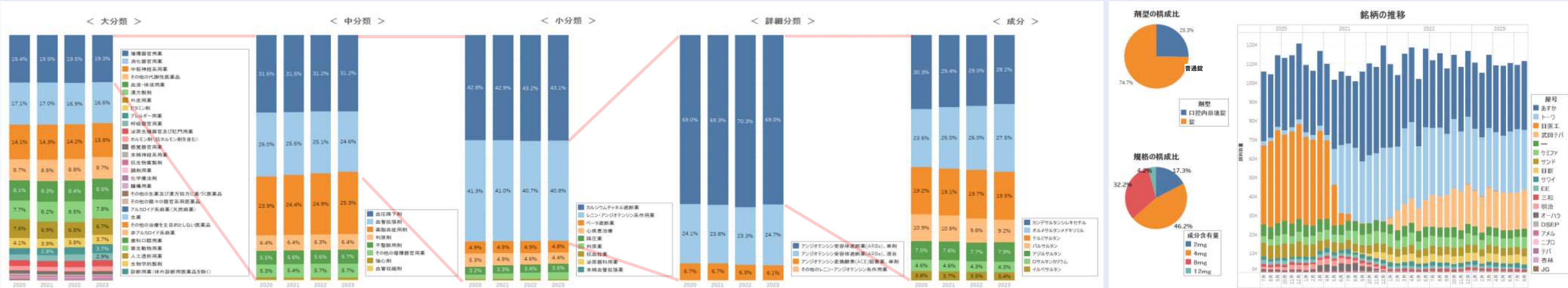
年	月	内容
2020年	2月	飯田市長から飯田医師会に検討依頼 飯田医師会から当会に検討依頼
	4月	当会内で地域フォーミュラの検討 飯田医師会への概要説明
	6月	ism-Link/ID-Link連携全件導入の設置作業
	7月	全件データの分析実施
	8月	第1回後発医薬品集約化の初期検討
	9月	第2回後発医薬品集約化の初期検討 飯田市立病院薬剤部へ概要説明
	11月	当会内で概要説明 飯田医師会への概要説明
	12月	飯田医師会＝当会の協議会
2021年	3月	地域フォーミュラ講演会 後発医薬品集約化説明会
	5月	後発医薬品集約化延期（書面にて通達）
	6月	流通状況調査・情報共有開始
	7月	後発医薬品集約化への薬局参加・対象成分の検討
	8月	現地卸向け要望書発出 飯田市＝飯田下伊那歯科医師会＝当会の協議会
	9月	対象医薬品群の追加検討
	12月	後発医薬品集約化に向けた医薬品安定供給問題対処方法の検討
2022年	6月	流通状況調査実施・結果情報共有
	8月	当会から飯田市へPFS制度活用 の提案
	10月	アンケート調査、調剤情報の活用（持参薬鑑別）の検討
	11月	飯田市へ地域フォーミュラの紹介
	11月	アンケート調査実施
2023年	1月	飯田医師会＝当会連携会議 飯田市へ医療費適正化の提案
	2月	飯田市へ推進支援（保険者努力支援制度）の依頼 当会会営2薬局の後発医薬品集約化検討、追加品目の検討
	6月	当会3薬局で後発医薬品集約化開始
	7月	通知「フォーミュラの運用について」の周知 飯田医師会担当理事との情報交換 第2回アンケート調査実施
	8月	飯田医師会会長と地域フォーミュラ検討方針の確認 飯田市＝飯田下伊那歯科医師会＝当会の協議会

② 調剤データの活用

■当会会員薬局のism-Link/ID-Link連携の参加状況 ※2023年3月末現在

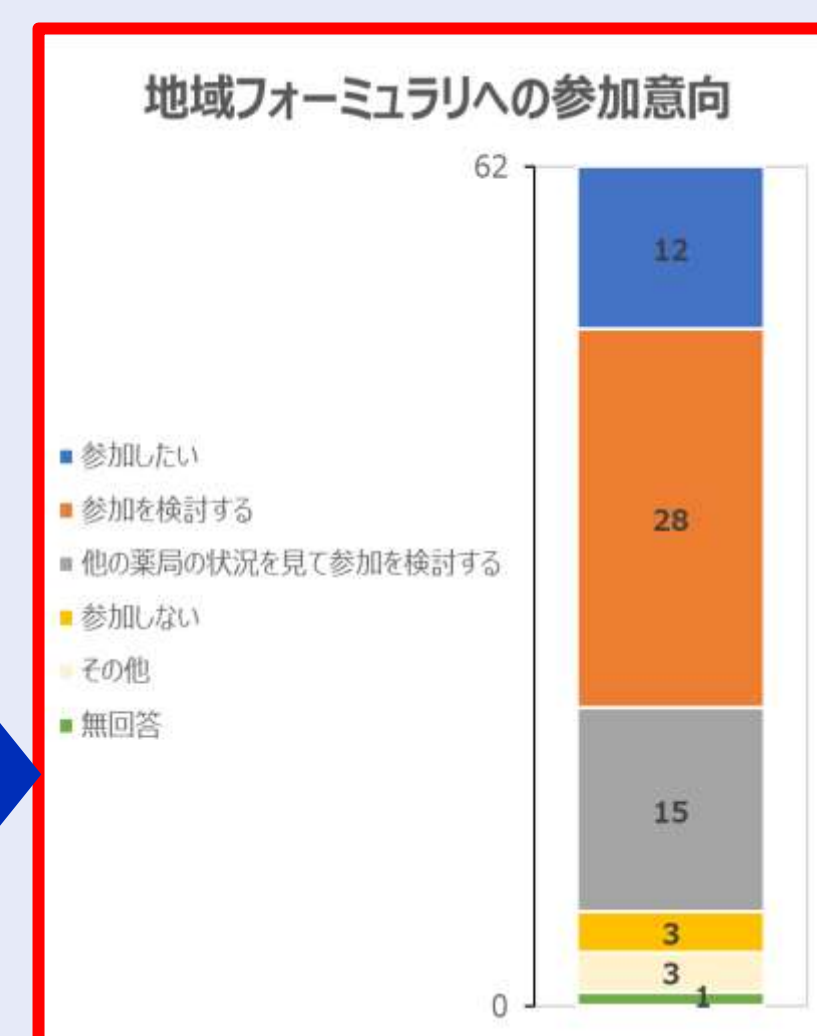
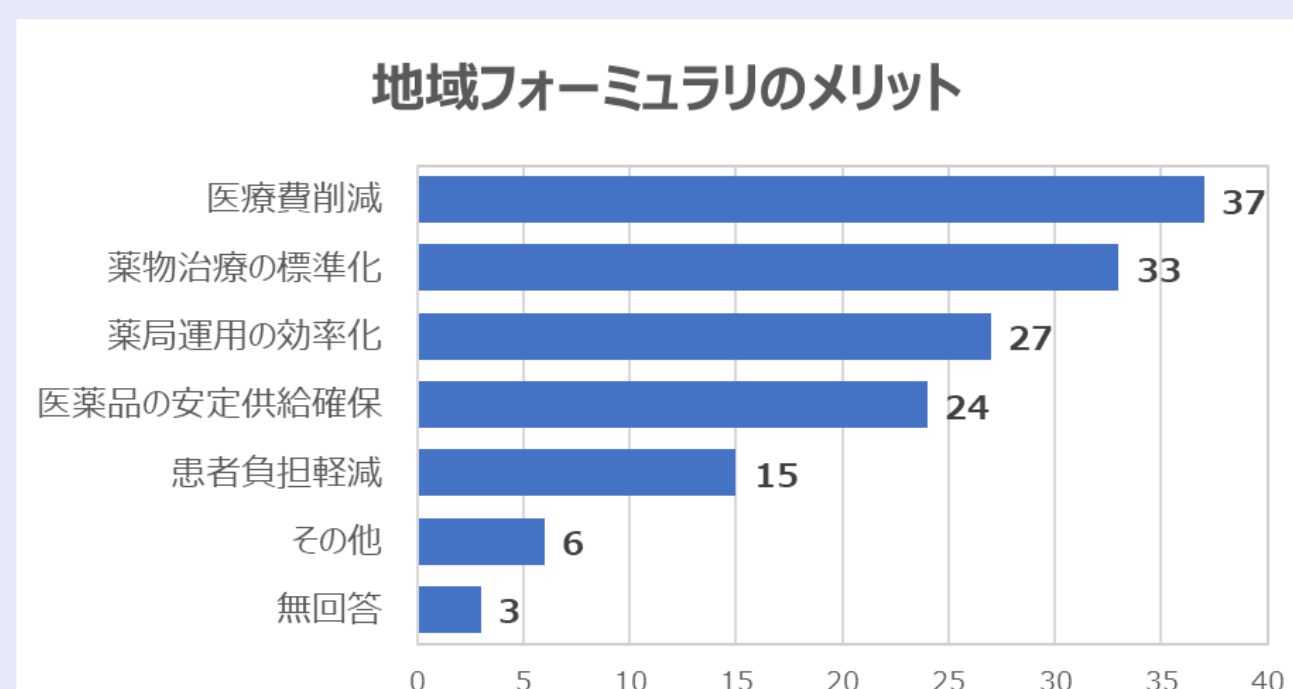
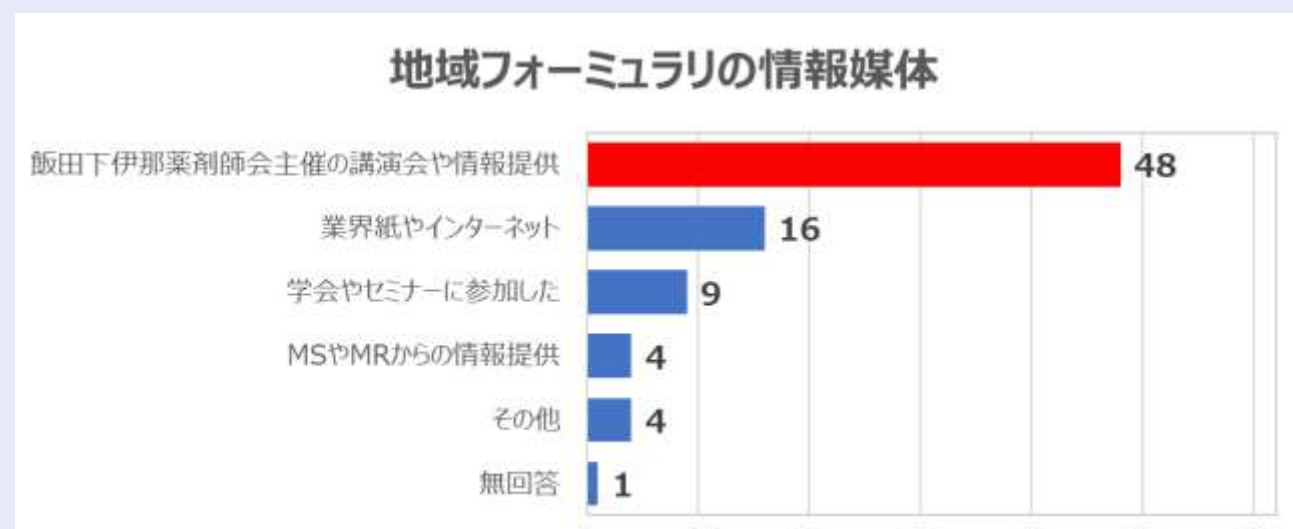
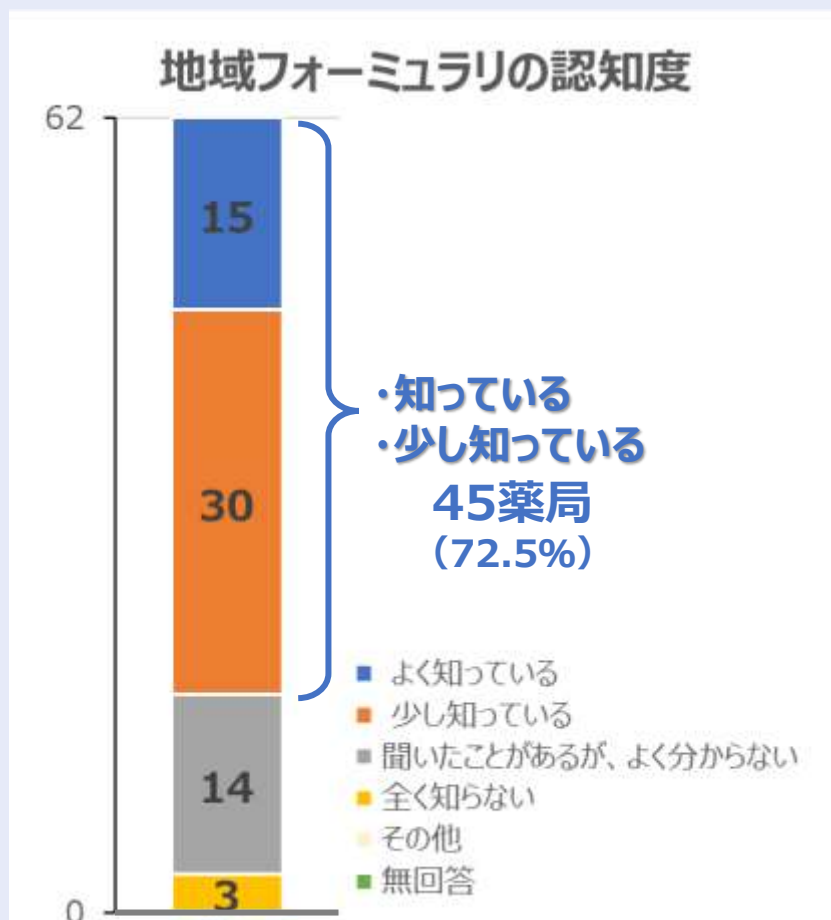
当地区全66薬局中61薬局が参加（参加率92.4%）

■使用状況を踏まえた医薬品群の検討

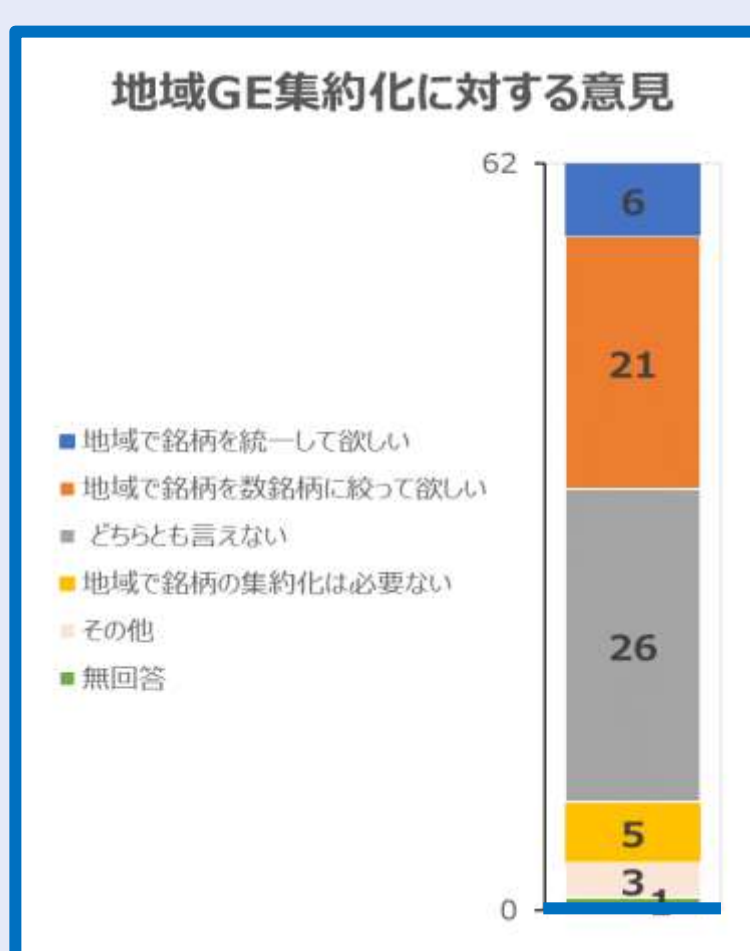


③ 会員薬局向けのアンケート調査

	薬局数	割合
回答	62	92.5%
未回答	5	7.5%
計	67	



参加・参加検討する
55薬局
(88.7%)



【参考】当地区における地域フォーミュラの検討の役割分担

【Step1】	データ分析
【Step2】	後発品集約化 業務所長が中心（後発品集約化の決定） 成分の中から後発品集約化（メーカー）を決定 例：高血圧治療薬（ARB系）カaptopril、カaptopril、カaptopril等の中からカaptoprilを選択する
	成分集約化（フォーミュラ） 医師会・薬剤師会・病院・自治体（医方会の決定） 薬効分類から成分を決定 例：高血圧治療薬（ARB系）カaptopril、カaptopril、カaptopril等の中からカaptoprilを選択する

■ 考察

- 当初、当地区での地域フォーミュラの検討方針は、飯田医師会が成分集約化、当会が銘柄の集約化を行うこととした。その後、講演会を実施したものの、新型コロナウイルス感染症によって協議会等が延期となった。2023年1月に当会から飯田医師会に検討状況の報告を行い、飯田医師会も協議を再開することになった。
- 2021年から医薬品流通問題が本格化し、当会も対応に追われたため、当会全体で地域フォーミュラの連携協議を進めにくい状態が続いたが、WEBセミナーや会報誌を活用し、当会会員に地域フォーミュラの情報提供を継続的に行っていた。その結果として、地域フォーミュラの認知度の向上を図ることができた。

- 銘柄集約化を実施するにあたり、医薬品流通問題の影響を調査した。結果として、安定供給確保について当会会員から強い要望があった。そのため、当会としては、医薬品の安定供給が見込めた3成分に限り、銘柄の集約化を開始することとした。
- 飯田下伊那歯科医師会とは、数年前より使用頻度の高い医薬品の処方例を作成していたので、今後、それを参考に協議を進めていきたい。
- 2023年7月7日に「フォーミュラの運用について」が発出されたことを受け、各都道府県も医療費適正化計画等の検討を推進することが想定される。今後は、各行政機関との連携を密にして進めていきたいと考えている。

日本フォーミュラ学会 COI 開示

筆頭演者名：木下 雅文（飯田下伊那薬剤師会）

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

Japanese Society of Formulary